

八千代町学校の適正規模・適正配置等に関する方針

未来を担う八千代町の子どもたちのために



令和7年2月

八 千 代 町

八千代町教育委員会

はじめに

全国的な少子高齢化が進行する中、八千代町においても児童生徒数の減少に伴い、小中学校の小規模化がさらに進む見込みであり、今後、複式学級の要件を満たす学校が出てくることが予想されます。小規模校は児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい、多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しいといった教育指導上の課題が生じる可能性があります。

また、今後の学校施設は長寿命化改修や大規模改修が必要となり、学校施設の維持・更新費用で財源負担の増加が懸念されます。

このような課題に対処するため、令和4年10月に、小中学校の将来を展望した学校のあり方について幅広い見地から検討するため、町議会議員や各地区長、町内幼児施設と小中学校の代表者および保護者、学識経験者など計25人で構成される「八千代町学校のあり方検討委員会」を設置しました。

「八千代町学校のあり方検討委員会」では、児童生徒の推移を踏まえ、小規模校の解消などの「学校規模の適正化」や未来を担う人材育成を図るための「小中一貫教育の推進」をテーマとして、令和6年11月までに計6回の会議において審議を重ねたほか、先進校視察を3回、その他保護者や教職員へのアンケート調査を実施し、令和6年12月に八千代町教育委員会へ提言がなされました。

この提言を受け、町及び町教育委員会は町内小中学校の教職員や児童生徒の保護者代表の意見収集を経て「八千代町学校の適正規模・適正配置等に関する方針」を策定いたしました。

この方針は、八千代町の学校の適正規模・適正配置等についての基本的な考え方を示すものです。

今後、町は未来を担う子どもたちのために、真に子どもたちが学べる魅力ある教育環境の整備に努め、充実した特色のある学校を目指し、学校再編に取り組んでいきます。

I 学校の適正規模・適正配置等に関する方針の基本的な考え方

学校の適正規模・適正配置等に関する方針は、次のような基本的な考えに基づいています。

【提 言】

総 論

【適正規模について】

- 小学校の適正規模
12～18学級（1学年2～3学級）
- 中学校の適正規模
9～18学級（1学年3～6学級）

【適正配置について】

- 小・中学校ともに望ましい適正規模の学校を念頭に置いた適正配置を検討していくこと。
- 児童生徒数のより詳細な将来予測等を踏まえ、将来に向けて学校の良好な教育環境を維持していくという長期的な視点に立ち、学校の望ましい適正規模を安定的に維持できるような学校を配置すること。

【適正規模・適正配置の検討を進めるにあたっての留意事項】

- 小中一貫教育を推進した学校運営を図っていくこと。
- 児童生徒や保護者、地域の方々からの期待に応えられるような、より魅力的な学校とするよう努め、児童生徒等への影響もできるだけ少なくするよう配慮すること。
- 登下校時の安全確保や通学時間の短縮などを考慮した、スクールバス等の導入や統廃合後の学校施設の利活用を併せて検討すること。

各 論

（１）中学校の適正規模化

町内にある２つの中学校（八千代第一中学校・東中学校）を統合し、現在の八千代第一中学校の校舎を活用する。

（２）小学校の適正規模化

町内にある５つの小学校（西豊田小・安静小・中結城小・下結城小・川西小）を統合し、小中一貫教育に適した位置に新設校を設置する。

【提言を尊重して学校統合を実施する】

この提言を受け、内容を十分に尊重し、次に示す考え方で早期に学校統合を進めていきます。

（１）中学校の統合・小学校の統合は「新設統合」とします。

中学校の統合・小学校の統合は、一部の学校が特定の学校に吸収されるものではなく、対等な統合とします。

真に子どもたちが学べる魅力ある教育環境となるよう、新しい学校を創立するという考え方で進めます。

（２）児童生徒の登下校時の安全確保に考慮します。

登下校時の安全確保や負担軽減などを考慮し、スクールバス等の導入の検討を進めます。

（３）既存敷地の活用について検討します。

小学校の新設統合校の位置については、小中一貫教育に適した配置ができるよう、既存敷地の活用について検討します。

Ⅱ 学校再編の具体的内容

「Ⅰ 学校の適正規模・適正配置等に関する方針の基本的な考え方」を踏まえた学校再編の具体的内容は、次のとおりです。

○中学校

- (1) 町内の2校の中学校(八千代第一中学校・東中学校)を1校に統合します。
2校の中学校は対等な新設統合です。
- (2) 統合の時期は令和10年4月を目標とします。
- (3) 新設統合校は、既存の八千代第一中学校を利用します。

○小学校

- (1) 町内の5校の小学校(西豊田小・安静小・中結城小・下結城小・川西小)を1校に統合します。
5校の小学校は、対等な新設統合です。
- (2) 統合の時期は令和13年4月を目標とします。
- (3) 新設統合校の位置は八千代第一中学校の敷地及び隣接地とします。
新設統合校は、小中一貫教育を推進するため、施設一体型または施設隣接型の小中一貫校とし、八千代第一中学校の敷地及び隣接地に新校舎を建設します。

○共通事項

- (1) 新設統合に向けた準備・推進委員会を設置します。
基本構想・基本計画の策定や小中一貫校の設置に向けた具体的な事項は、準備・推進委員会を設置し、協議していきます。
- (2) 小中学校跡地(施設)の利活用を検討します。
公共施設の適正配置に関する方向性や地域福祉・住民コミュニティのニーズを双方から協議し、本町の将来を見据えて、あらゆる可能性を検討します。

未来を担う八千代町の子どもたちのために

これからの子どもたちは、持続可能な社会の創り手として少子高齢化の中をしなやかに生きぬいていかななくてはなりません。そのような中で学校は、単に教科等の知識や技能を習得させるだけではなく、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人ひとりの資質や能力を伸ばしていくことが求められます。

町としては、児童生徒に他人を思いやる豊かな人間性を培い、自己実現に向けて真摯に進む心身ともに健全な人材教育を実施していきたいと考えております。さらに「ふるさとを思い、ふるさとを愛し、ふるさとが豊かになることを願い、ふるさとのために尽くす人材を育てていく、愛郷無限」の大切さをふるさと学習を要として取り組んでいきたいと考えております。

子どもたちにとって生まれた環境や場所、通う学校によって受けられる教育や出会う友人の数、登下校時の安全性などに差が生じることは避けなくてはなりません。誰一人取り残すことなく全ての子どもたちがたくましく成長し、未来の八千代町を担う人材になってくれることを期待しています。学校の小規模化や少子化にのみとられることなく、町民の皆様とともに議論を進めたいと考えています。“未来を担う八千代町の子どもたちのために”この思いを胸に刻み、本町の学校再編について、強い覚悟をもって取り組んでまいります。